

興奮と体臭とのミクスチュアは、時には暑苦しく、そして臭く、文科系の私にとっては理解不能な、別世界として感じられました。そのエネルギーはとにかく凄まじく、中には髪を切る間も惜しんで、学業、ドリブル、アルバイト、そして恋愛、という様々な自己実現に向かって全力で走る者もいました。

気づくと、私はあの講義室の熱気から解放され、基礎配属として第一希望であった腫瘍病理学講座へ行くこととなりました。そこでは、今までほとんど交流の無かった同期達4人といろいろな研究に励むことができ、新しい出会いが新鮮に感じられ、色々な人と付き合うことの楽しさを知ることができました。また、個人としては以前から興味があった「がん細胞の転移能」について思いっきり考えること（研究）ができ、感謝しています。

「温度と転移能の相関関係」という研究は自分の頭の中では現在進行中ですが、なかなか研究室へ通って実験をする時間を見つけることができず（作ることができず）、自らのタイムマネジメント力の無さを実感しているところです。昔から気付かされている課題ではありますが、今度こそは時間をもっと有効活用できるように色々と工夫を凝らし、学生の内に論文を書けるよう、頑張りたいと思っています。

さて、いよいよ夏休みも終わり、あのエネルギー的な講義室へと戻る時期になりました。ニシタイ旋風を再び浴びるのを想像すると、一気に体を怠さに支配され、授業に出席しなければならないという義務感だけが私を学校へと向かわせました。

講義室に到着し、所定の席へ腰をかけ、私は目を閉じ深呼吸をしました。

「これからは、あの臭いとともに、勉強の毎日だ。よし、がんばろ……うん？」

第1脳神経はすぐに異変に気付きました。

「この臭い、否、匂いは、どこから？まさか…」

目を開けると、違和感を覚えたあの別世界はどこかへと消え去っており、学友達はすっかりと様変わりしていました。部活着は激減、持ち物もCBT対策本などが目立つようになり、なによりも一人一人の背中が物語る意気込みが強く、清らかに感じられるようになりました。

青春という言葉に思いを馳せ、幹部学年という重圧にも負けず、自らの心身に鞭を打ち、限られた時間という呪縛のもとで犠牲を払いながらも、決して笑顔を忘れることなく、一つの目標に向かって全てを注ぎ込む、その勝ち取るという熱意、

全てがピュアな、そして美しい心と体から生まれた物なのだと、恥ずかしくも私は今更気付きました。

体育会系部活動に参加していない方も、ペースを崩すことなく、黙々と突き進んでいるのが良く見えます。多くは優秀な成績を修めることで学年内に良い意味での焦りを与え、みんなの目標・理想となっています。

同じHomo sapiensでありながらも、目標が違うだけで、人間はスキルや行動が変わってきます（変えられます）。そのことを気付かせてくれたトラウマ族と、それを体現した29期生、見事です。

これから、CBT、ポリクリ、総合試験、国家試験と、医学生としてのハードルはどんどん高くなっていきますが、私は全く怖くありません。

なぜなら、立派な背中達が、私を見守ってくれているからです。

海外旅行中毒

大野 哲 生（3年次）

医学科同窓会会員のみなさま、はじめまして。3年次の大野哲生と申します。

この夏、私は夏休みの約1ヶ月半をフルに使い、ヨーロッパで一人旅をしてきました。今回はそれを含め海外旅行にたいする僕の思いを書きます。私はもともと海外に行くのが好きで、今まで、一人でオーストラリアやアメリカ、カナダ、韓国などにいったことがありました。しかもどれも最低2週間、カナダは約2カ月留学していました。僕がなぜこれほど海外に行くのが好きで、海外中毒になっているのかというと、海外へ行けば甘えがきかないので、丸裸の自分になって、自分自身の

